令和元年台風第１９号

（令和元年東日本台風）

八王子市災害ボランティアセンター

活動報告書



災害ボランティアセンター（浅川事務所）のボランティア受付の様子
9時受付開始前から列ができる（11/1　8:47）

社会福祉法人
八王子市社会福祉協議会

目　　次

本紙作成にあたり（会長挨拶）　…… 1

1 被災エリア
（1） 全体概要・南浅川流域　…… 2
（2） 北浅川流域・秋川流域　…… 3

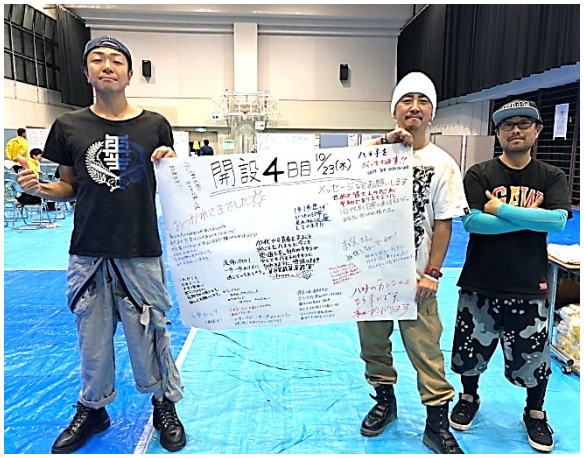
2 災害ボランティアのコーディネート展開過程　…… 4～6

3 八王子市災害ボランティアセンター活動状況
（1） ニーズ対応数　…… 7
（2） 派遣回数推移グラフ　…… 7
（3） 活動ボランティア数　…… 8
（4） ボランティア活動者推移グラフ　…… 8
（5） 曜日別活動者数割合　…… 9
（6） 活動者の男女比　…… 9
（7） 活動者の平均年齢　…… 9
（8） 活動者の在住地　…… 9

4 八王子市災害ボランティアセンター関係者の声
（1） 被災地域より　…… 10～15
（2） 運営協力者 ・ 参加者より　…… 16～23
（3） 応援職員より　…… 24～28

5 その他の支援活動　…… 29･30

（資　料）社会福祉協議会の災害対応経過一覧　…… 31～36



TOTALFAT の Shun さんとボランティアグループの皆さん（10/23　本部）
八王子ゆかりのアーティストのつながりから多くの関係者が活動に参加いただく

本紙作成にあたり

「一人ひとりに寄り添った支援活動に向け」



社会福祉法人　八王子市社会福祉協議会
会　長　　尾　川　　朋　治

台風により被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申しあげます。

2019 年 10 月 12 日に上陸した令和元年台風第 19 号（令和元年東日本台風）により、八王子市内もこれまでに経験したことのない大雨に見舞われ、12 日には「土砂災害警戒情報」、そして初となる「大雨特別警報」が発令されました。その後、八王子市では浅川地区や恩方地区を中心に多くの浸水被害が発生しました。そのため、八王子市から社会福祉協議会に対し災害ボランティアセンターの設置依頼をうけ、社会福祉協議会では初めてとなる災害ボランティアセンターを立ち上げました。

そして、災害ボランティアセンターを中心に、被災者や被災地域のニーズに基づく復興支援活動を市民の皆さんをはじめ関係機関・団体と連携しながら実施しました。

特に、全国各地から駆け付けたボランティアの活動は、突然の災害を経験され茫然自失の中にあった被災された方のお宅に流入した大量の土砂を取り除くとともに、生活復興への一歩を踏み出す元気と勇気をもたらしました。

社会福祉協議会では、今後起こりうる災害に備えて、必要な取り組みを実施するとともに、“顔の見える地域づくり”が災害時にも強い地域を生むことを、今回の台風対応で目の当たりにしました。

この経験から、地域での災害対策は、災害時に限ったものではなく、日常の「福祉でのまちづくり」の延長線上にあるものだと改めて感じ、引き続き、地域での助けあい・支えあいを広めていく取り組みを進めて参りたいと思います。

こうした取り組みの第一歩として、初めての災害ボランティアセンターの設置・運営に関する社会福祉協議会の動きや関係者の声などの情報を収集・整理して冊子にまとめることにしました。そして、こうした過程を通じて、洗い出された課題に対応する具体的な行動に結びつけていき、更なる被災者に寄り添った災害ボランティアセンターの設置・運営につなげていければと考えております。

最後になりますが、今回、災害ボランティアセンターの設置・運営にあたり、全面的にご支援・ご協力いただきました、東京都社会福祉協議会をはじめ南多摩ブロックの町田・日野・多摩・稲城の市社会福祉協議会の皆様、並びに東京都災害ボランティアセンターなど関係機関の皆様には心から御礼申しあげます。

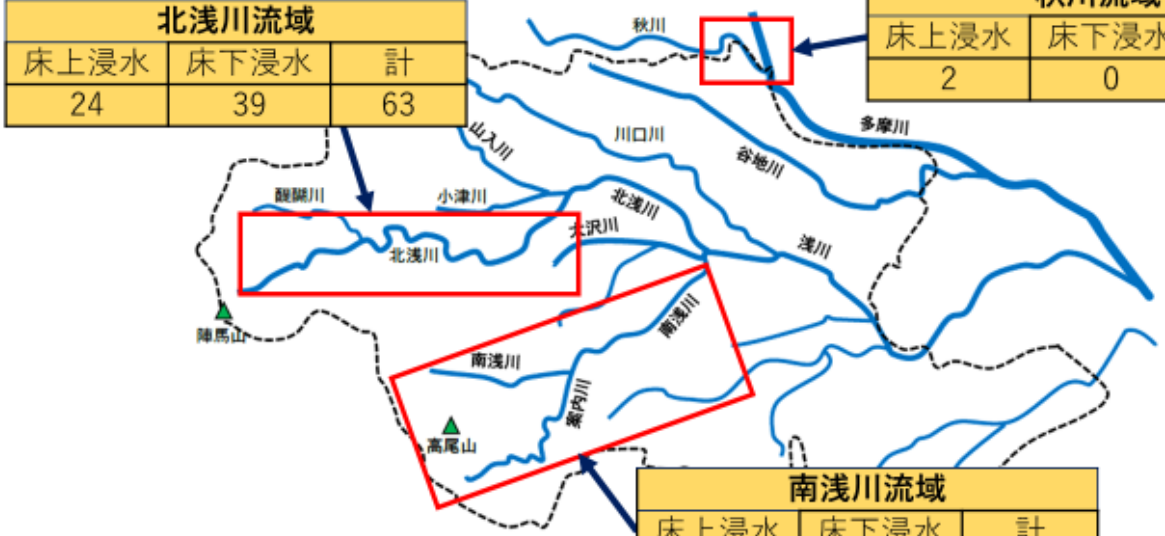
そして、参加していただいたボランティアの皆さん、誠にありがとうございました。

1　被災エリア　全体概要

□被災エリア

北浅川流域		
床上浸水	床下浸水	計
24	39	63

秋川流域		
床上浸水	床下浸水	計
2	0	2



南浅川流域		
床上浸水	床下浸水	計
46	117	163

データ：八王子社協調べ

南浅川流域の被災エリア

□被災エリア



北浅川流域の被災エリア

□被災エリア



秋川流域の被災エリア

□被災エリア



２ 災害ボランティアのコーディネート展開過程

八王子市社会福祉協議会（以下「社協」）は、令和元年台風第１９号（令和元年東日本台風）の被災への復興支援活動を被災者や被災地域のニーズに基づき実施した。その中で、災害ボランティアのコーディネートは、3 つのフェーズを経ながら、地域住民や関係機関と連携し対応した。

○第 1 フェーズ（初動対応期）　：10 月 14 日（月）*祝日～10 月 18 日（金）
地域福祉推進拠点　浅川でのコーディネート

台風通過後すぐに、社協に地域住民から被害報告がなされ、その後も、町会長や民生委員など地域関係者から次々に地域の情報がＣＳＷにもたらされる。すでに、町会を中心に復旧活動が始まっており、多くの人出が必要であったことから、災害ボランティアセンターの設置に先駆けて、14 日から浅川事務所内に災害対応ブースを設け、ボランティアの受付とそのコーディネートを行う。ボランティアは徒歩等で、活動場所まで移動。ニーズの多くは、町会長や民生委員を通じて寄せられる。

浅川地区被災地域にある地域福祉推進拠点にて受付





ニーズ





ＣＳＷや町会長によるニーズ調査

ボラ

活動報告



ボラ

多くの活動先は、近隣。地域関係者が引率し、徒歩で移動。遠くの場合、地域関係者やボランティアの車で移動。



〇第 2 フェーズ（本部集約期）　：　10 月 19 日（土）～10 月 30 日（水）

災害ボランティアセンター（災ボラ）開設



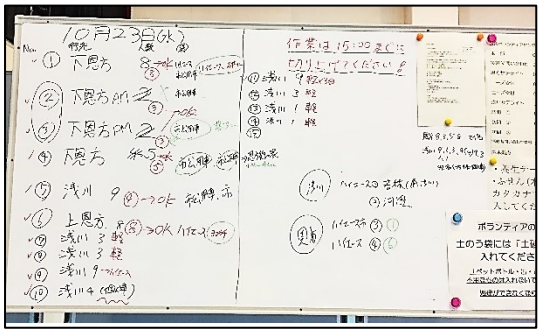
・本部：八王子市役所職員会館体育館
・浅川サテライト：地域福祉推進拠点浅川
（主に浅川地域事務所のスペースを利用）
・恩方サテライト：恩方老人憩の家
・由木サテライト：地域福祉推進拠点由木

10 月 15 日、社会福祉協議会に初めてとなる災害ボランティアセンターの開設打診が八王子市からあり、これを受け 19 日に八王子市役所の裏にある職員会館の体育館に本部を、恩方老人憩の家・地域福祉推進拠点浅川・由木にサテライトを開設し、登録された災害ボランティアリーダーや市役所職員と連携しながら、30 日まで運営にあたる。本部では、ボランティアの受付を行い、サテライトや被災地域へ公用車や借り上げたハイエース、マイクロバスで 30 分ほど掛けピストン輸送した。災ボラ本部にて多くのボランティアを受付。ニーズは、本部で受付となるが、浅川地区の多くのニーズは浅川サテライトへ寄せられる。また、一部のボランティアはこれまで通り浅川サテライトで受付。









ホワイトボードで活動場所を表示(本部)





災ボラ本部

ボラ

ボラ

ボラ

ボラ

活動場所に近いサテライト

活動報告

活動場所

活動報告

活動場所へ

○第３フェーズ（地域移行期）： 10 月 31 日（木）～11 月 14 日（木）～現在
本部機能を浅川拠点へ移行～災ボラ閉所～ＣＳＷによる通常支援

ニーズへの対応が進み、その後の生活支援を見据えて、10 月 31 日から 11 月 14 日の災害ボランティアセンター閉所まで、本部機能を地域福祉推進拠点浅川（浅川地域事務所のスペースに加えて、浅川市民センターの一部も利用）へ移行し、職員会館の体育館に設置した本部、恩方老人憩の家・地域福祉推進拠点由木のサテライトを閉所。浅川拠点にてボランティア受付・コーディネート。遠くの活動場所は、ハイエース・公用車で送迎。ニーズ調査は、地域担当であるＣＳＷが実施。災害ボランティアセンター閉所後の個別ケースについては、引き続き身近な相談支援窓口である地域福祉推進拠点で対応。

災害ボランティアセンター
（地域福祉推進拠点　浅川）





遠くの活動場所



遠くの活動場所の場合、町会会館などをお借りして休憩



ボラ

活動報告

近隣の活動場所へは徒歩で移動





使用した道具は、ボランティアが清掃し、指定の場所へ



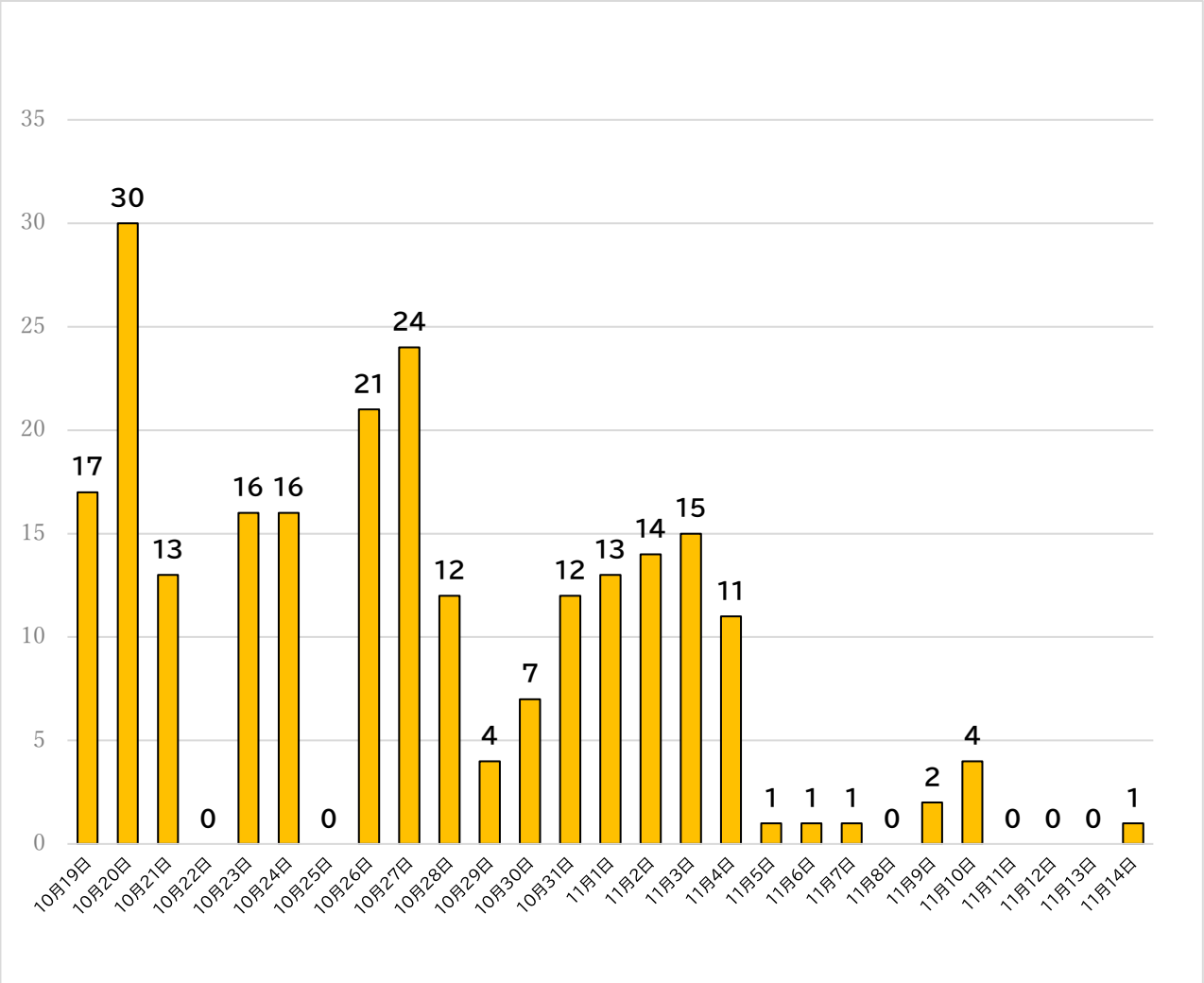
３ 八王子市災害ボランティアセンター活動状況

（１）ニーズ対応数　（10/19～11/14）

受付場所	派遣回数	対応箇所数
本部	45	26
浅川	190	106
合計	**235**	**132**

※地域福祉推進拠点 浅川（10/14～18）では、23 箇所を超えるニーズに対応

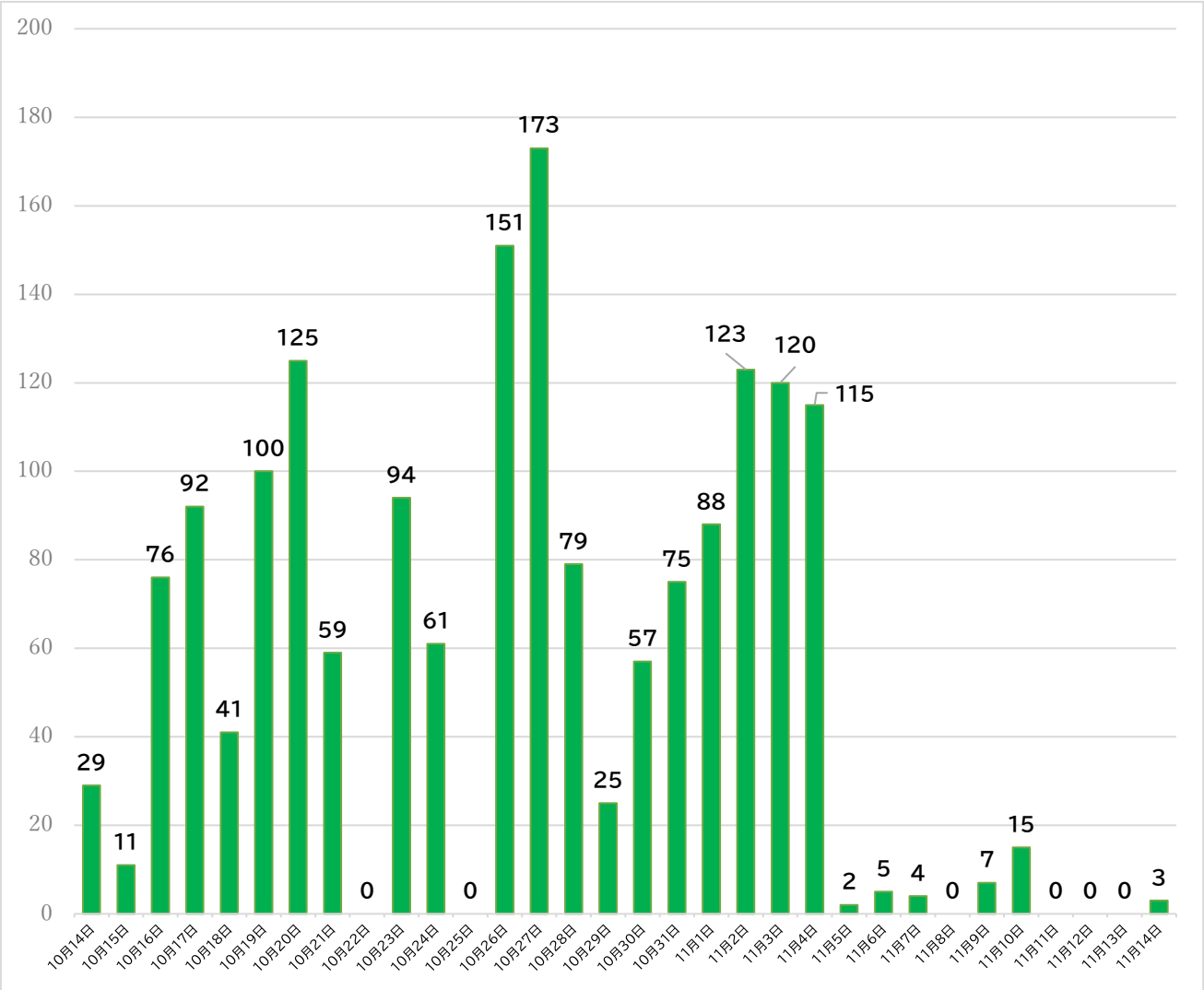
（２）派遣回数推移グラフ



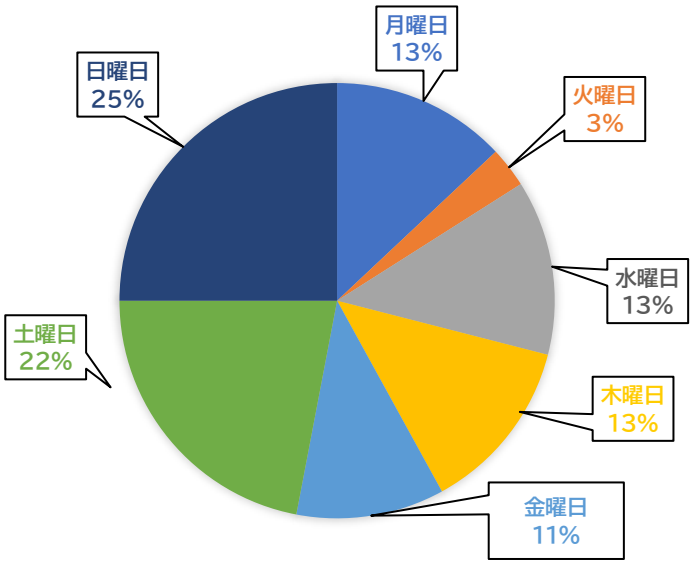
（３）活動ボランティア数　（10/14～11/14）

受付場所	受付数	活動先内訳		
		浅川地区	恩方地区	その他
本部	705	449	230	26
浅川	1,025	995	19	11
合計	**1,730**	**1,444**	**249**	**37**

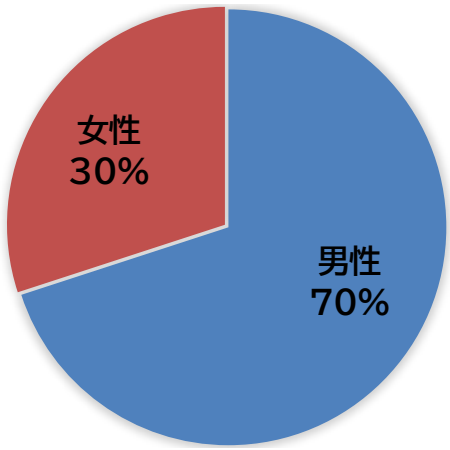
（４）ボランティア活動者推移グラフ



（５）曜日別活動者数割合（除く中止・活動休止・募集中止日）

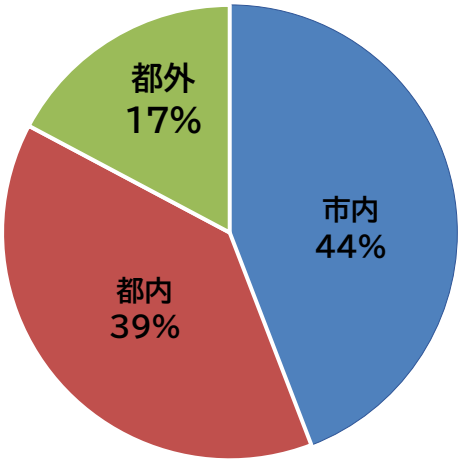


（６）活動者の男女比



（７） 活動者の平均年齢　41.36 歳

（８） 活動者の在住地



４　八王子市災害ボランティアセンター関係者の声

（１）被災地域より

「台風１９号　令和元年１０月１２日における浅川地区町会連合会の対応」

浅川地区町会連合会　　会長　佐戸　博

台風１９号は日本に上陸し、各地に大きな被害をもたらし、この浅川地区も河川越水により床上床下浸水が１６０棟超、全壊２棟、土砂崩れ等も各所で発生し、かつてないほどの甚大な被害を被りました。

浅川地区町会連合会では、大災害発生時に「避難準備情報発令時には執行部・防火防災部長」「避難勧告発令でさらに防火防災員」が、「避難指示が発令されたら全町会長」が避難所に集結する規定になっています。

この台風接近に伴い私は、所属町会のことは前日に、副町会長に指示（全権委任）しておいたので安心して指揮が取れました。



令和元年 10 月 12 日
避難所となった浅川小学校体育館（初沢町）

避難所に行くと、市職数人で避難者対応をしていて、我々も避難所運営を手伝いました。体育館では避難者が思い思いに居場所を作り、増えてくると歩く場所が無くなりました。

そこで私の脳裏に浮かんだのは、数年前に行われた八王子市総合防災訓練での夜間宿泊訓練です。この宿泊訓練は２０年ぶりとのことで、避難を想定しての体育館での宿泊でした。適当に居場所を作っていると（通路のことは思いつかず）防災課職員が、「皆さん、トイレなどに移動する時はどこを通りますか？」と問いかけてきました。そこで初めて「避難所での通路」の必要性を感じたのです。

「皆さん、通路を作りますから協力して下さい」と言い、町会長たちと通路作りを行いました。通路を作ると避難所内は整然となります。続々と避難者がやってきて、地域利用室など３教室を追加し、浅川小だけでは足りなくなり東浅川小にも開設しました。

避難所には、各町会からの情報が刻刻と入電してきます。「会長、国道２０号が濁流と化している」、「市民センター裏が越水して床上浸水している」、「国道２０号西浅川通行不能」などの報告、「濁流に囲まれた家屋に取り残されている。

救助隊でないと助けられない」、「無理するな。消防には通報したか」、緊迫したやり取りがありました。しばらくして、救助の報告がありホッとしました。

雨も上がり「解散」の指示をし、地区内を巡回して帰宅した５時過ぎ、最後まで活動していた町会長から「町内の排水作業終了」の報告があり、昨日からの作業が終了しました。

復旧作業は、地区の人たちが助け合い、また大勢のボランティアにも助けられました。このボランティアを素早く動員できたのは、地域福祉推進拠点が開設されていたからです。関係各位の皆さまに感謝申し上げます。

そして、見えてきたのは多くの課題です。この課題を、八王子市を始め各機関と共有して、あってはならない「次」に向けなければならないと考えます。

例えばこのような課題がありました。

＊避難所の夜は真っ暗にしないが鉄則だが、東浅川小は真っ暗であった。
＊水は２ℓが７８本だけで、全員に行渡らない。紙コップ・湯呑がなかった。（小さなトラブルが発生した。）基本は学校の水道を使用する。
＊備品に関しては、情報を得るためのテレビかラジオが必要。
＊避難者に状況を周知するため、地区ごとの大まかな地図とホワイトボードが必要。
＊避難所で区分けをするため、養生テープが必要。
＊各地区町会自治会連合会に配置する無線機を数台が必要。
＊ハンドマイクなど必要と感じた。

なお、運営に関しては、行政だけで行うより、地区が協働して運営する方が良い。そのために、町会長、住民協議会長、民児協地区会長、地区社協会長（浅川のみ）など行政が立ち上げたらどのように移譲するのか、はっきりとした決まりがない。地震などの長期に渡る避難所開設は、行政だけでは無理が生じます。このことも課題です。

そして、現在は、新型コロナ禍での避難所の在り方が問われています。「三密」にならない方法、「備品（消毒用アルコール・マスク・検温器等）の見直し」も喫緊の課題です。

浅川地区町会連合会では、浅川小学校体育館で新型コロナウィルス対策のためのシミュレーションを行い。八王子市と連携し細かな対策を作り、住民に共有化し新たな避難所運営に努めていきたいと考えているところです。



令和２年７月25日
コロナ感染症対策避難場所設営訓練

「令和元年台風１９号による被災体験」

浅川地区町会連合会　中宿町会会長　大野　均

それは連絡網の電話から始まりました。

１０月１２日（土）午前８時、避難勧告が発令され、私は避難所の浅川小体育館に急ぎました。その時はまだ、これから起こる大災害など想像できませんでした。

次第に雨も激しくなり、各地域から情報が入り始めました。私は自町会が心配になり、連合会長に了解を得て町会に戻ると、副会長、消防団員と巡回を始めました。高齢者宅を中心に避難を呼びかけ、避難所に行けない場合は２階に避難するよう促して回りました。



令和元年 10 月 14 日
復旧作業の指揮を執る大野町会長

午後４時、南浅川の濁流は越水５０ｃｍほどに迫ってきました。さらに激しくなった雨は濁流をいっそう増やし、ついに午後８時、氾濫を始め、住民に自家用車の移動を指示し、あとは住宅地に流れ込む濁流のすごさに、ただ唖然として見ているだけで、水位は１ｍほどにもなってしまいました。

午後１０時頃、雨も小康状態になり川の水位も下がり始めました。私は、溜まった泥水を前に「どうするんだ」と思い悩みましたが、消防団が既にポンプ車で排水作業を行っており、余りの多さに消防署にも出動を要請、翌１３日の午前４時過ぎまで、夜を徹して作業をしていただきました。



中宿町会員宅の庭陥没
（高尾町）

二日目は休む間もなく、泥水が引いた後の清掃や汚泥の片づけを住民総出で行いました。汚泥は重く、時間が経つにつれ固まり運び出しも一苦労でした。

１４日からは、社協の地域福祉推進拠点が本格的に動き出し、多くのボランティアに協力いただきました。泥だらけになりながら復旧作業をしている姿を見て胸が熱くなりました。おかげでスムーズな作業ができました。

私にはこの台風が、日ごろの住民同士の繋がり、「遠くの親戚より近くの他人・向こう三軒両隣」の大切さ、町会の大切さを改めて感じさせてくれました。

（町会被害＝床上下浸水３２棟・その他２・土砂流入多数）

「台風１９号に関する町会の対応」

浅川地区町会連合会　落合町会副会長　金子　幸好

令和元年１０月１２日、八王子市を襲った台風１９号は、未曽有の豪雨をもたらしました。幸い、人命にかかわる事態は免れましたが、避難が遅ければ危なかったかもしれません。改めて避難の大切さを実感しました。落合町会内では、町会が把握しているだけでも床上浸水８軒、床下浸水７軒の被害が出ました。そのうちの２軒は居住不能の状態になり、現在も市内の公営住宅で仮住まいを余儀なくされております。

今回の台風に対しての町会対応は、前日に町会長より、浅川地区の避難所が開設された場合はそちらに詰めるため、副町会長二名で町会内の対応指揮に当たること、一人暮らし高齢者１２名には町会会館を一時避難所として開設する案内を前日中に行うので、避難準備情報が出たら、会館を開け避難者を受け入れること、の２点を指示されていました。

翌１２日午前８時に避難勧告が発令されたため、会館に一時避難所を開設、消防団に朝と夕に一人暮らし高齢者宅の戸別訪問を指示し、状況により会館への避難を促していただきました。その中では会館に避難された方はいませんでしたが、裏山の崩落懸念で１世帯２名、浸水懸念で２世帯２名が避難し、役員２名で対応いたしました。市が開設した指定避難所にも３世帯の避難を確認しています。

当町会は山と川に沿って住宅が建てられているため、土砂崩れと川の増水による浸水の両方のリスクを抱えております。

今回の被害住宅はすべて、４つの橋に流木や漂流物が詰まり越水したことによる被害でした。橋の桁下空間の確保は構造上限界があり、今後とも同様のリスクは回避できません。今回のように甲州街道が濁流状態となると、裏に川を控えているお宅は脱出路が閉ざされることになります。

今回の経験を踏まえ、町会員に対し避難とそのタイミングの重要性を啓発・共有していきたいと思います。



令和元年 10 月 12 日
濁流と化す甲州街道(西浅川町)

「令和元年台風 19 号被災から復旧まで」

恩方地区町会自治会連合会　大沢町会長　坂本　滋美



10 月 12 日（土曜日）朝 8：01　八王子市より避難勧告警戒レベル 4 が発令

恩方育成園に避難者の受け入れを依頼する。（多目的ホールを開放）町会役員に高齢者、河川付近の住民を優先に避難開始。

15：30　特別避難警報発令（大雨）警戒レベル 5 に相当　避難指示（緊急）が消防団から連絡が入る。北浅川西大沢橋が越流し通行不能となる。

20 時現在で避難者 3 町会総数 112 名を収容した。

今回の台風は、今迄にない災害を起こす恐れのある大型で大雨をもたらす雨雲を引き連れて上陸の恐れがあると報道がありました。

大沢町会は北浅川に囲まれ東西の橋に被害があった場合は、陸の孤島になる状況に位置している。町会内には、聖パウロ高校、恩方育成園があり、通学生徒、通勤職員が日々通行している。今回の台風災害で通学、通勤道路が土砂崩落により、通行止めとなる今迄にない被害に見舞われた。道路だけでなく、住居 7 軒が土砂被害、18 軒で床下浸水と多くの被害を受けた。今回の土砂崩落により流出した土砂が、自衛隊の見解で 7 万立方メートルと報告がありました。

大沢町会では、13 日に災害対策本部を設置し、町会員が一丸となって復旧作業に当たりました。翌日から八王子市防災課発注受注者による復旧作業が始まりました。道路の復旧は八王子市に依頼、住居敷地内の復旧作業を町会員、聖パウロ高校の野球部の生徒を中心に OB、保護者、育成園職員、町会関係者の友人など多数の皆さんで土砂の取り除き作業に当たる。水を含んだ土砂の撤去は重労働で大変な作業であり、思うように捗らなかった。

数日後、社会福祉協議会が手配したボランティアの皆さんが応援に駆けつけつけ、災害時の復旧活動に参加した経験を生かし、手際よく土砂の処理に当たっていました。

優先順位を決め主要箇所の除去を優先に行い、各自が作業内容を理解し土砂の撤去が順調に進みました。やはり経験者の力が復旧活動に大きな成果を発揮してくれました。

大沢町会として未曽有の台風 19 号大災害に見舞われ、僅か 10 日余りで通学・通勤道路が確保できました。これもひとえに地元町会員各位の自助・共助、市役所等の公助、何よりも増して社会福祉協議会ボランティアさん支援のおかげと感謝しています。

「台風１９号の災害を振り返って」

浅川地区社会福祉協議会　会長　上村　秀如

台風 19 号の大雨は、防災無線の放送、消防車やパトカーのサイレンの音をかき消し家の中で様子を見ているよりなかった。雨と共に風の強い台風と報道があったが台風の通りすぎた翌朝、庭先には風で飛んできたものもなくほっとし、甲州街道に出てみると道路は泥水に埋まり、浅川沿いの家々は軒並み床上、床下浸水。



令和元年 10 月 13 日　被害を受けた白山橋

まずこの状況を社会福祉協議会に連絡、対応を依頼し事務所に集合した。事務所裏の白山橋には大量の流木が引っかかり欄干の一部は倒され周辺には大量の泥流が流れ込んでいた。取りあえず事務所駐車場、隣接する高尾保育園への動線を確保するため泥や流木などの片付けを行った。すぐに地域福祉推進拠点の職員が到着し状況の把握とボランティア受け入れの準備を開始した。翌日、私たちは社協職員を案内して被害状況把握のため西浅川町、南浅川町、高尾町、裏高尾町を調査した。

活動が始まると日頃から連絡を密にしている地域福祉推進拠点が災害ボランティアセンターの核になってくれたので、細かい説明をしなくてもすぐに場所や状況を理解してくれてたいへん心強かった。私たちは臨時地域連携会議等に参加すると共にボランティアの支援を行い、個人で身近な場所の泥だしなどに参加した。災害ボランティアセンター閉鎖に当たり八王子フードバンクより食材の提供を受け浅川地区社会福祉協議会の会員で豚汁、浅漬けの炊き出しを行いました。



令和元年 11 月 4 日
感謝の炊き出し（浅川事務所）

日頃からの訓練が大切なことを学びました。同時に被害状況を正確に広く伝えることの大切さも学びました。今回の被害は浅川地域の中でも町田街道より西側の川沿いに集中したため中央線の南側に住む人たちには状況が伝わらず地元の援助が少なかったことが大きな反省点です。被害を受け、助けを求めている人がいることを伝えていくことが大切です。

（２）運営協力者 ・ 参加者より

「災害ボランティアセンターの運営の協力者として」

※災害ボランティアリーダー　馬場　弘

八王子市では、10 数年前の新潟県中越地震の教訓を受け、災害時に市民から災害ボランティアセンター（以下災ボラ）運営の協力者（災害ボランティアリーダー）を募り年数回の養成研修を重ねてきた。研修では災ボラを運営するのに「ニーズ」「総務」「受付」「マッチング」「送り出し・資材」班となるが、作業内容の確認や問題点などを研修し災害に関する学習を行ってきた。

今回の災ボラの運営では、主に「送り出し・資材」を担当した。「マッチング」班で活動の場所や人数、作業内容などが決まる。その各班に移動方法や安全に作業していただくために、①ボランティア活動の心構え ②活動に当たっての注意事項 ③活動終了後の報告などのお願いをし、マスク、手袋などの持ち物などの補充と作業に必要な資材の一輪車・土のう袋・その他作業に必要な道具の受け渡しなどを行う任務でした。実際にはホワイトボードとレジメを用い説明し良く伝わっているように感じた。また、マスクなどの持ち物、道具なども各自用意されていた。



令和元年 10 月 19 日　送り出し風景(本部)

今回参加して感じたことは、会場が体育館で受付、マッチング、送り出しと各班の連携が非常に取り易かった。参加者は災ボラ側の手配した車にて移動したために混乱はなかった。

もし今回より大きな災害があったときに、ニーズ班が要望を聞き取り、ボランティアの要望とマッチングさせて、送り出し後、現地までの足の確保はボランティアにお願いとなったとき、どこまで機能するのか心配している。

もっと大きな問題は、市民に災害の情報が伝わっていない。多くの人が知らない。知らなければ支援もボランティアも集まらない。また、災ボラ設営場所も再考の必要があるかも。

私事ですが、東浅川地区で泥出し、職員会館の体育館にて会場設営、翌日から活動に参加し新しい知人も出来た。人と人との繋がりの大切さと温もりを学ばせて頂いた。

※災害ボランティアリーダーとは、被災地での復興支援活動や、八王子が被災した時、災害ボランティアセンターの開設及び運営に協力いただける市民ボランティア。これまで養成講座を修了した方は 150 名を超える。

「八王子市災害ボランティアセンター立上げ運営に携わって」

災害ボランティアリーダー　板野　孝幸



令和元年台風１９号は八王子市内の河川沿い、山間部にお住いの方々に災害をもたらし、被害に遭われた方々には心よりお見舞いを述べさせていただきます。

台風襲来時、私の自宅は京王八王子駅近辺にあり避難所となる市立第四小学校体育館で敷きマット、防寒毛布等、避難者の受入環境を市職員と町会役員として行っておりました。

風雨も段々と強くなるにつれ大雨警報（土砂災害・浸水害）も大雨特別警報に変わり、危機感も増すたびに避難所へ来られる住民も増え、体育館に入りきれず幾つかの教室も使わせていただくなど避難者の対応に翻弄されておりました。

駅周辺は高架下で車両が水没するなどの被害は起きましたが、消防団と浅川の警戒を続け周辺は越水被害を免れ、日曜日の朝には避難所を閉所して元の姿に戻すことが出来ました。

未だその時点では市内で多くの災害が発生している事を知る由もありませんでした、そこへ社協からのメールで「災害ボランティア活動の募集」が届き、同じ八王子の住民でも災害の状況は掴めず市内の広域さ、事象の甚大さを感じた次第です。続いて「災害ボランティアセンター立上げに伴う、運営応援のお願い」が届き、初めて立上げ運営という貴重な経験をさせていただきました。

今まで災害ボランティアの講習でセンター立上げ～送出しを机上模擬でトレーニングを受けておりましたが、実動となると緊張も正直ありました。

参集されて来た一般ボランティアとの接し方、誘導、諸事項の依頼などを通し、全体掌握を学ぶ事が出来、また、ボランティア送出し後は、自身も東浅川、恩方地域の被災家屋に向かい沢からの土砂崩れ、河川越水の泥出し復旧に微力ながら従事させていただきました。



令和元年 10 月 19 日
受付対応する板野さん

活動を通しご支援いただいたボランティアの輪、支援団体との連携など仲間作りも大切にして行きたいと感じました。

フル対応の社協職員の方々に深く感謝申し上げます。

「八王子市災害ボランティアセンターに携わって」

一般社団法人八王子青年会議所　第 54 代理事長　齋藤 祥文



令和元年 10 月 13 日、私は一般社団法人八王子青年会議所(以下、ＪＣＩ八王子)の理事長として、公益社団法人日本青年会議所主催の第 68 回全国大会富山大会(10 月 10 日～13 日)に参加していました。

台風 19 号は富山県にも容赦なく襲い掛かり、飛行機をはじめ新幹線などが全て運休となり、全国大会のファンクションも中止になるなど猛威を振るいました。

私はＪＣＩ八王子のメンバーとのやり取りを通じて、八王子の状況を把握するために情報収集に努めていました。

13 日日曜日、メンバーの車で私は八王子へと向かいました。しかし上信越道が通行止めになるなど困難を極め、八王子に戻ってくるのに約 9 時間を要しました。

帰路の道中、私は知人の社会福祉法人八王子市社会福祉協議会(以下、八王子社協)の職員と連絡を取り合うことで、八王子の被害状況を詳しく知ることが出来ました。

14 日月曜日から被害復旧作業があるということだったので、13 日日曜日の夜、急遽ＪＣＩ八王子メンバーにボランティア参加を呼びかけ、約 10 名を集めることができました。

私はこの時、初めて災害ボランティアを経験し、写真や映像では伝わらない被害の大きさを目の当たりにしました。河川の氾濫で浸水してしまった家屋の泥撤去は想像以上の重労働でした。泥は水分を含んで重く、掻いても無くならない。高齢者世帯は家から出ることすらできない等、様々な現実を知りました。

その後、災害ボランティアセンターが設置され、復旧活動が終わるまでの間、ＪＣＩ八王子メンバーをはじめ、全国のＪＣＩメンバーが応援に駆けつけてくれました。ＪＣＩは全国規模の組織であり、２０～４０歳以下のメンバーで構成される組織です。

台風 19 号の災害後、八王子社協とＪＣＩ八王子は「災害時における協力協定」を締結しました。愛する地域のために、私たちは今後も有事の際には最前線で地域の復旧復興に努めて参ります。



令和元年 10 月 15 日(東浅川町)
復旧作業中のＪＣＩ八王子のメンバー

「災害ボランティアの今後の課題について」

一般社団法人八王子青年会議所　2019 年度専務理事　菊嶌　太士

まず初めに、このような記録誌への寄稿の機会を頂きまして、ありがとうございます。



私は一般社団法人八王子青年会議所に所属しています菊嶌太士と申します。

令和元年台風１９号に伴う災害ボランティアセンター運営に携わることができて貴重な体験をさせていただきました。

八王子市社会福祉協議会としても災害ボランティアセンター設置が初めてということで色々と打ち合わせをしながらボランティアを行い、その時の感想や今後についての課題を書かせていただきたいと思います。

まずはボランティアを参加させていただき、大変な現状を目の当たりにしたときに同じ八王子に住んでいて、被災している地域とそうでない地域でこんなにも状況が違うということ知り、同じ八王子市民としてできる限りのことをしなくてはという思いになりました。しかし、この感情は私がボランティアに参加できるきっかけがあり現地に行ったから芽生えた感情であり、現地に行かなくてはボランティアに積極的に参加しようと思わなかったかもしれません。

今後は多くの市民の方々にボランティアの参加意識を持ってもらうために色々な方面から被災現状を発信し知ってもらうことが大事だと思いました。

ボランティアの内容としては、色々な職種の方々の力が必要だと感じました。そのような中で専門的な知識のあるボランティアの方々が少なかったと感じています。特に、私は土木建設業ですので我々のような業種がしっかり連携し、初期対応をすることで復旧復興が迅速に進むと思いました。出来ることなら専門業種の組合と八王子市社会福祉協議会で締結や連携などを図っていただき、初期対応は専門業種の方が主導で行えた方が良いと感じました。



令和元年 11 月 3 日(横山町)
災害時協力協定締結式

このような災害は今回だけではなく、今後もあることだと思います。八王子青年会議所としては、八王子市社会福祉協議会と災害時における協力協定を結ばせて頂きましたので、今回の経験を活かし、さらに連携を図っていき有事に備えていきたいと思います。

「地域の力と共に歩んだ八王子市災害ＶＣ」

東京災害ボランティアネットワーク　福田　信章



令和元年 10 月 20 日(浅川サテライト)
朝のミーティングでの福田さん

2019 年の台風 19 号で被害に遭われた全ての方々にお見舞い申し上げます。

いくつかの被災地で災害ボランティアセンター（災害ＶＣ）を通じて支援活動をして、被災者と呼ばれる方々と友達になった経験がある私にとって、基礎自治体に設置される区市町村の災害ボランティアセンターの最大の役割は被災された住民の方々の声を拾うことだと思っています。たくさん来てくれるボランティアの方を向くのではなく、まずは被災された住民（＝つまりいつも会うあの人やこの人）の困っているという声をきちんと聞けるかどうかが大切だと思っています。

声を聞くためには住民のところに行く必要があります。結構大変です。たくさん被災された方がいた時は誰から聞いていいかわかりませんし、人数も足りません。何を聞いていいかもわかりません。単純なことではあるのですが、そうそうできることではありません。

昨年の台風 19 号災害で、八王子社協の地域福祉推進拠点浅川の職員の方々も、当初、必ずしも被災された住民の方々の声を聞けていたわけではなさそうでした。でも話を聞いていると、住民の方々の様子は知っていました。住民の声を聞いている町会長や民生委員から話を聞いていたからです。大きな被害を受けてしまった浅川地区の町会長や民生委員がいち早く住民の方々の声を聞いて、それを浅川拠点の職員さんに伝えていました。だから直接住民の方々の声を聞いていなくても住民の方々の様子については知っていたのです。

地域の人（今回は町会長と民生委員）が「支援が必要な人」「必要になりそうな人」「被害が大きかった人」をわかっていて、そこに足を運んで声を聞き、それを支援につなげるために浅川拠点に行く。そこでは何とか支援をしようと考えている職員があの手この手で解決方法や応援できる方法を考えていく。普段から（災害前から）こういう関係性で地域課題に取り組んでいることが伺えました。また、支援が必要な住民とのやり取りを、発災直後は町会長と民生委員が行い、その後、災害ＶＣの立ち上げ準備がひと段落してからはＣＳＷを中心とした八王子社協の職員が担い、住民の声を丁寧に聞いていました。

八王子市災害ＶＣは、住民の声を聞き、それに基づいて支援活動を展開している災害ＶＣでした。私も八王子市民なのですが、今後も住民の声を大切にした災害支援活動や地域福祉活動に取り組んでいただきたいと思っています。

「生徒と災害ボランティアに参加して」

私立 海城中学高等学校　教諭　関口　伸一

令和元年 11 月 1 日の学校創立記念日に、ゼミを受講している海城生有志 6 名と教員 1 名で八王子市の災害ボランティアに参加してきました。

10 月の台風 19 号で八王子市の浅川が氾濫しました。11 月 1 日の時点でも庭や水路などに土砂がたまっている場所がありました。

災害ボランティアセンターで、災害ボランティア活動場所のマッチングが行われ、海城生は市民ボランティアの方々と一緒に、山あいの地域の水路の土砂を取り除く作業をしました。

地域の方によると、昔から使われていた水路で、台風 19 号の大雨で鉄砲水が起きて、土砂が流れ込んでしまったそうです。たまった土砂をスコップで掻き出し、土のうに詰めて運びました。

土砂はとても重く、掻き出すのも運ぶのもかなりの重労働でした。途中休みながら、5 時間程度作業に臨みました。生物部の生徒が「この作業、谷戸の里山保全作業に似ていますよね。だから、意外と動けます。」と話していました。普段から体を動かす活動をしていると、こうした災害ボランティアの時にもその経験が活きることがわかりました。

地域の方から、水害の時の様子を話してくださる方もいて、その恐ろしさを現場で感じることができました。一方で、地域の方から、作業後に感謝の言葉をいただき、とても気持ちの良いものでした。また、最後に災害ボランティアセンターで振る舞われた豚汁は美味しかったです。

気候変動の影響か、昨年は様々な災害に見舞われました。異常気象が起きないように対策をすることはもちろんですが、いざ災害が生じたときに、何をすべきかを考え、自分のできる範囲で動ける生徒が育ってくれたら嬉しいです。



水路は意外と深く、土砂を運びあげるのは大変でした。



土砂を土のうに詰めます。



土のうをねこ車（一輪車）に入れて運びます。



作業後のひと時。これだけの土砂を掻き出しました！

＜災害ボランティア活動者の意見・感想（活動報告書から）＞

【作業について】



ボランティアが積み上げた土のう袋は、
５万袋と言われています。

・予想外に土砂の量が多く大変だった。
・活動終了後も、まだ泥が多く残っているお宅があり、少しでも力になりたいと感じた。
・床下の泥をとるのは初めてだった。よい体験ができた。
・床下作業が力仕事で大変だった。
・重い砂利を運んだので腰がつらかった。
・泥の重さと臭いがつらかった。
・身体が大きいと床下作業は難しい。
・メンバーの手際がよく大量の土砂を運べた。
・低姿勢での作業だったので、腰痛、疲労がありますが大丈夫です。
・土のう袋に詰められている土の量が多すぎて大変でした。
・土のうに詰める作業の中でも、雑草と泥が混ざっているものは作業がしにくかった。
・水にぬれた泥だしは大変だと痛感。非常にやりがいのある泥だし。
・初めて災害ボランティアを体験する人が多かったが「来てよかった」と話していた。
・思っていた以上に被害が大きかったのでびっくりした。
・表土を取る場合の【完了の線引き】が難しい。細かい部分の泥のとりのぞきが大変だった。
・2回参加。同じところに行くことになり、復旧の経過が見れてよかった。
・山の土が水分を含んでおり、予想以上に重く作業が大変でしたが、現地にいたプロの大工さんからも指示を頂いたおかげで時間内に作業が終了した。
・土のうづくりでバケツの底を抜いたやつを用いることで詰めやすい方法を学べました。
・泥は悪臭があり、汚泥なので軍手よりもゴム手袋と合わせ使用する方がよい。
・泥が乾燥しているところは土埃があがりマスクは二重にすることとゴーグルがあった方がよい。（各自で持参する必要がある）
・水分を含んだ泥は、男性の方が作業がすすむと思います。
・3人でしたが、One Team で効率よく作業が完了しました。
・11 名の大人数だと、仕事は早い。しかし。割り振り（分担）が難しかった。 グループの中に1人でも【必要道具を把握できる人】がいたのでよかった。
・床下の泥かきはなるべく小柄で力のある人がよいと思います。
・依頼者がとても協力的・親切で気持ちよく作業ができた。
・参加者、個人個人で判断して作業。効率よくでき、時間より早く終わらせることができた。
・被害が大きいお宅で、ボランティアの人数が多く、多方面のニーズに対応できたことがよかった。
・体力やチカラがあるメンバーだと作業が早い。→バランスも必要。
・熱中症が心配だったので、水飲み回数を工夫した。用水路の土砂はとても重く大変だった。
・周辺道路が泥で汚れているので水を流してきれいにしてほしいとのリクエストがあったが時間も限られていた。

【課題について】
・近所には足の不自由な方のお宅もあり、引き続きケアが必要かと思う。
・依頼作業はおおよそ完了したが、道路の脇はボランティアで対応できない。
・他の家より被害が小さいので、なかなか頼みにくかったという依頼者の声があった。
・依頼者には遠慮があり、して欲しいことを言わない方が多く配慮が必要だと感じた。
・家の前の歩道が狭く、土のうを積む場所に困った。ただ、市清掃事業所が午前午後と回収に来てくれたおかげで問題なかった。
・細かい場所などにはスコップがあると助かります。
・継続案件は前日までの活動内容などの引継ぎがあればと思います。
・出発時の地図がわかりづらく、地元の方に聞きながらの到着でした。
・泥の廃棄の仕方がわからない。ボランティアへ周知も必要では。
・スコップ等に名前などの目印が必要。区別がつかなくて困る。
・（作業範囲に対して人手が足りなかったので）あとから人を追加してもらえたことが助かった。
・待ち時間が少なければもっと作業ができたのにと思いましたが、（被災されたお宅での）対応はよかったので安全に気持ちよく作業できました。
・床下の泥だしがボランティアでは限界があり。潜っての作業は大人数ではできない。
・被災者の方との意思疎通が難しかった。内容を聞いても「ありがとうございます」「お世話になりました」の繰り返し。お互いの希望を合わせるのが難しいように思いました。
【被災地域について】
・お家の方に感謝していただき、こちらもうれしかった。
・町内会の方が参加してくれ一緒に活動、早くきれいになり、感謝と感激。
・高尾に住んでいるが、これだけの方が被災されているのは知らなかった。参加できて非常によかった。
・依頼者から、差し入れをいただき感謝。
・家の方も協力的で作業しやすかった。
・依頼者の方は精神的にもお疲れでお話を伺うことができ、力になりたいと思いました。
・災害直後の大量の流木の画像を見て愕然としました。南浅川の低いところが何もなくて、高いところ（山の傾斜地）の被害がひどいのには驚いた。
・土砂とゴミの多さにびっくりしました。水害の怖さを思い知らされました。
・今回の災害で自身の家の周辺では被害がなかったが、参加したことで災害の怖さと、助けあいの精神の大切さを学ぶことができました。
・災害ゴミの早期回収があれば、被災された方の心理的ストレスも軽くなると感じます。
・高齢者の多い地区だったので、私たちのような若者がボランティアに参加することはとても大事だと思いました。
・実際に被災地に伺うと、想像以上に状態がひどく衝撃を受けました。
・危険を感じるような場所だったので、できることに限界があり、被災者の方の満足いくまでの作業にはまだまだ日数がかかりそう。
・自分たちがボランティアをしている以上によくしてもらい、地域の人々の温かみを感じた。

（３）応援職員より

東京都社会福祉協議会　東京ボランティア・市民活動センター　熊 谷 紀 良



台風 19 号の避難指示が解除となり、被害の発生が明らかになった翌日の 10 月 14 日、被害状況の確認に東京都社会福祉協議会から浅川拠点を訪問した際には、すでに近隣地域の方々が中心となってボランティア活動が行なわれていました。

被害状況の広範さからみて災害ボランティアセンター開設の可能性があったため、事務所に戻って開設される場合にそなえて準備をすすめていたところ、災害ボランティアセンターを立ち上げる方向との連絡をいただきました。19 日のセンター開設の前々日より浅川拠点にて、東京災害ボランティアネットワークとともに開設準備のお手伝いに入りました。

広域でも「東京都災害ボランティアセンター」が設置され、八王子市災害ボランティアセンターの開設から終了・説明会までのおよそ１か月は、東京都社会福祉協議会、東京ボランティア・市民活動センター、東京災害ボランティアネットワークのスタッフが交代で運営の応援に訪問しました。

社会福祉協議会に災害ボランティアセンターが開設されるようになって久しいですが、東京において八王子市のような都市規模の地域に災害発生時に開設されるのは、今回が初めてのことでした。ホームページやＳＮＳでの発信に反応があり、中央線に乗って様々な方がボランティアに駆けつけてくださいました。縁あって沖縄から参加された方など、遠くからの応援もありました。一方で、被災されたお宅の状況は一見しただけでは分かりづらい地区もあり、地域の町会自治会、民生委員、ボランティアなど住民のみなさんが被災宅の方の声を受けとめ、つないでくださったことは大切な役割を担っていただいていたと思います。

日頃から地域福祉推進拠点での活動をＣＳＷはじめ社会福祉協議会ですすめられていたことから、住民のみなさんと被災後早くからお話しし災害ボランティア活動をすすめることができたといえるのではないでしょうか。また、センター運営には近隣市で構成する南多摩ブロックの社会福祉協議会職員が継続して応援に入ってくださったことも、日頃からのネットワークによるものと思います。

この間のお取組みにあらためて敬意を表しますと共に、もしもの時にそなえた平時からつながる地域づくりを今後もご一緒に取り組むことができればと思います。

町田市社会福祉協議会　地域福祉課　地域福祉第一係　仲泊　昌仁



町田市社協から、10 月 20 日から 11 月 4 日まで 7 名の職員を交代で八王子市災害ボランティアセンターへ派遣しました。延べ 12 名の職員が八王子市浅川事務所に設置された浅川サテライトでの活動に関わらせていただきました。

今回の応援では、東日本大震災や西日本豪雨災害時に災害ボランティアセンターでの実践経験のある職員も参加しましたが、私自身は八王子市災害ボランティアセンターが初めての実践の機会でした。町田市のすぐ隣の八王子市が被災地になったことは、私自身大きな衝撃を受けました。現場は広範囲にわたって床下浸水や床上浸水の跡が残っており、また、現地を流れる南浅川の氾濫時の様子の写真も見せていただき、台風 19 号の被害の大きさを実感しました。それと同時に災害はいつどこで発生するか分からない、そんな当たり前のことにも気づかせてくれました。

派遣期間中は、事務所での電話対応や、ボランティア依頼やボランティア活動者の受け付け、活動現場までのボランティアの送迎、スコップやバケツなど活動中に使用した機材の洗浄など、多くのことに関わり、災害ボランティアセンターの全体像を見ることができ、とても貴重な経験となりました。また、夕方のミーティングでは、当日の活動を振り返り、その日出た課題の整理を行い、翌日にはボランティアセンター運営の改善につなげていたことは、私自身とても勉強になりました。



浅川サテライトにて事務作業する町田社協職員（手前が仲泊さん）

今回の応援では、都内だけなく全国から八王子の被災地へ駆けつけてくれた多くの災害ボランティアはもちろん、町会自治会をはじめ地元の方々もボランティアとして関わり、地元の地区社協からボランティアへの手作りの豚汁やおむすびの提供など、みんなが一丸となって復興に向けて取り組んでいることを大きく感じました。

町田市社協から多くの職員が、八王子市災害ボランティアセンターの運営支援に関わることができました。派遣期間中に得た貴重な実践経験を、今後の町田市災害ボランティアセンターの立ち上げと運営に、是非活かしていきたいと思います。

日野市社会福祉協議会　日野市ボランティア・センター　宮崎　雅也



発災当時、私は避難行動要支援者の対応をするために市の要請を受け市役所で待機していました。日野市も警戒水域を越え危険な状態にあり、浅川流域には避難勧告が出され、8,600 人を超える人が避難所へ避難しました。そんな時に八王子の浅川地区があのような大きな被害を受けているとは知る由もありませんでした。

台風が去った翌日に東京ボランティア・市民活動センターと連絡を取り被害状況を確認したところ、八王子市が大きな被害を受けていることを知りました。その後、南多摩ブロックの調整のもと、日野市は浅川地区の支援の準備に入りました。私は、先遣隊として 10 月 18 日に東京災害ボランティアネットワークの福田さんと一緒に浅川事務所に入りました。周辺を徒歩で確認をしたところ、実際には事前に聞いていたよりも広範囲に被害が及んでいる状況でした。

発災直後から駆けつけたボランティアがおり、もともと八王子市社協は、浅川地区に地区社協を設置していたことから、地域の町会長と協力し迅速な調整が行われていました。また、地域福祉推進拠点のＣＳＷが、日ごろから地域住民と共に地域活動をしていたこともあり、地域住民の方と顔見知りだったことは、初動期から大きな力になったと思います。



令和元年 10 月 19 日　高尾町でニーズ調査中の宮崎さん

10 月 19 日には災害ボランティアセンターが八王子市役所裏の体育館を使って開設されることになり、南多摩ブロックの社協職員も毎日交代で応援をすることになりましたが、復興に向けて一番の力になったのは町会長をはじめとする住民だったと思います。この地域に愛情を強く持つ方々のパワーは本当に素晴らしいものでした。

今回の災害で、地域の日頃の繋がりの大切さを強く感じました。声をかけ気遣い合う住民や地元の消防団、そして社協職員や行政職員それぞれの力が重なり合い、町は日常を取り戻して行き、そして今まで以上に強い町になるのだと思います。私達もこのことを教訓にしていきたいと思います。

多摩市社会福祉協議会　多摩ボランティア・市民活動支援センター　川辺　一成



八王子社協より災害ボランティアセンターへの職員派遣協力要請があり、私は１０月１９日に参加した。

当日は、八王子市災害ボランティアセンターの開設初日であったが、市役所別館の会場に到着すると、既にボランティア受付からマッチング、送り出しまでのルート設営も完了しており、応援職員への役割説明などもスムーズに行われていたので、平時から市と社協との連携や協力体制の整備、職員の役割分担などの備えがよくできているなあと感心したのを覚えている。

全体運営調整を行う総務班やニーズ受付班も、随時、被害状況や被災者からのボランティア要請に対応しており、市役所以外にも浅川や恩方事務所にもサテライトを運営しているのには驚いた。



令和元年 10 月 19 日災ボラ本部受付班で対応する川辺さん

私は、ボランティア受付班の対応を行ったが、水害に限定したボランティア受付票となっていたことにより、受付票の記入や確認に要する時間も短縮され、スムーズな受付作業であった。

ニーズもドロ掻きを基本として、既に概ね５～８名のグループ分けにてマッチングがなされ、資材班より必要資材を受け取り、車で被災地まで送迎し活動する仕組みであった。

浅川事務所のサテライトでは、地元の自治会が中心となって活動が行われていたが、発災時から対応していたため、浅川事務所に直接来られるボランティアもいたことから、サテライトの運営に支障が生じた面もあったようだ。

多摩市社協でも毎年災害ボランティアセンター設置・運営訓練を実施しているが、現マニュアルは震災を想定しており、近年台風等による水害が多発していることを鑑み、八王子市災害ボランティアセンターの運営内容を参考にさせていただきながら、多摩市の災害ボランティアセンターの運営に活かしていきたい。

稲城市社会福祉協議会　地域福祉係　栗原　和恵



令和元年台風 19 号で被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。また、復旧に向けご尽力されたボランティア、関係者の皆様に対しまして、深く敬意を表します。

私は被災から 10 日を過ぎて災害ボラセンに応援で入らせていただきました。とても印象的だったことは、町会長や民生・児童委員の方々が災害ボラセンに何度となく足を運び、八王子社協の職員の方々に被災した地域、住民の皆様の困っていることを伝えていることでした。

床上床下浸水した家、土砂が大量に流入した庭、どこから手をつければよいのかわからず、途方に暮れている住民の皆様の状況が、災害ボラセンに情報として集約されていました。そして、ボランティアの方々から生活復旧の支援を受けられて、救われた思いだったのではないでしょうか。また、復旧が進み、刻々と変わる被災地の状況や新たなニーズが、ボランティアの方々からも災害ボラセンに的確に伝えられていたことで、必要な所に支援が円滑に届いていたのだと思います。

令和２年７月、九州に留まらず全国各地で豪雨により甚大な被害が出ております。私達の生活は自然災害と隣り合わせになってしまいました。わずかな天候の変化に不安や心配を抱えながら生活を送らざるを得ません。

私も原点に振り返り、社協が地域に果たす役割について考えながら、地域へ出向いています。災害を経験したまちは、これまで以上に人と人とのつながりを大切に、災害にも強いまちに大きく変化を遂げていく可能性を秘めています。

自然豊かなまちが一日も早く完全に復旧され、皆様が安心して暮らしていかれますことを祈念いたします。



令和元年 10 月 27 日
浅川サテライト終礼で意見交換する栗原さん

５　その他の支援活動

災害ボランティアのコーディネート以外の復興支援活動を被災者や被災地域のニーズに基づき実施した。

（１）臨時地域連携会議

浅川地区では、ＣＳＷが町会役員・民生委員・地区社協・包括支援センター・市役所出張所など地域の関係者を招集し、臨時地域連携会議を３回開催し、変化する被災者ニーズの把握・共有、対応方法の検討・役割分担を行った。また、地域内外の団体・関係者や NPO・NGO 等の多様な支援団体との情報共有・調整を適時実施した。

回数	開催日	主な協議内容
第　１　回	１０月１５日（火）	被災状況・ニーズの情報共有、役割分担
第　２　回	１０月２９日（火）	被災者ニーズへの対応、住民説明会の開催
第　３　回	１１月２日（土）	住民説明会開催周知・内容、災ボラ閉所



10/15　浅川地区臨時地域連携会議（浅川事務所）

（２）被災住民向け説明会（被災住民 66 名参加）

土砂が流入した被災住民に対して、土砂の処理方法や生活再建の経験談を被災地ボランティアや被災支援団体からお話しいただくとともに、行政職員（課長職 9 名）も交え中で質疑応答を行い、不安軽減を図った。



11/14　被災住民向け説明会（浅川市民センター）



（3）災害ボランティア活動写真展

台風 19 号による市内の被災状況や災害ボランティア活動を知っていただくため、写真展を開催して、市民に防災・減災、共助の大切さを訴えた。

開催日	開催場所
12 月 17 日～12 月 27 日	市役所市民ロビー
1 月 6 日～1 月 11 日	地域福祉推進拠点 由木
1 月 12 日～1 月 16 日	南大沢文化会館ロビー
1 月 17 日～1 月 27 日	地域福祉推進拠点 石川
1 月 28 日～1 月 31 日	北野事務所
2 月 3 日～2 月 9 日	地域福祉推進拠点 由木東
2 月 12 日～2 月 13 日	八王子駅南口総合事務所
2 月 14 日～2 月 17 日	ウエルシア薬局八王子東中野店
2 月 18 日～2 月 20 日	八王子駅南口総合事務所
2 月 21 日～2 月 28 日	由木事務所



12/20 マキシマム ザ ホルモンの「ダイスケはん」が来場（市役所市民ロビー）

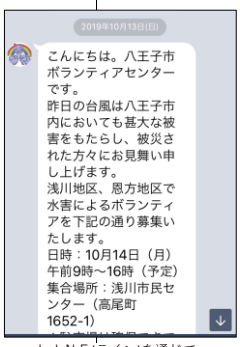
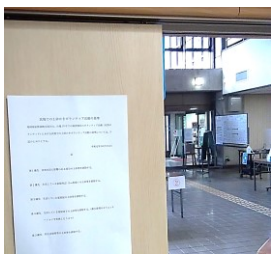


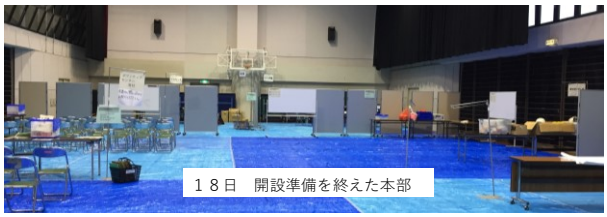
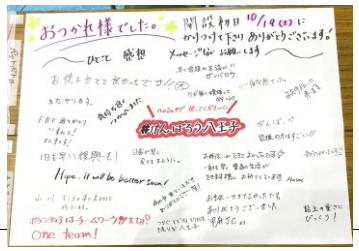


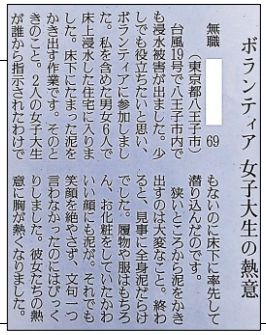
写真展では、来場者にシールを張り付けてもらう災害アンケートをお願いしました。

市内で台風被害があったことをご存じでしたか？			災害ボランティアが活動したことを知っていましたか？		今後災害ボランティアに参加してみたいですか？			自宅周辺をハザードマップ等で確認したことはありますか？		防災・減災のイベントに参加したいですか？		
知っていた	被害の大きさは知らなかった	知らなかった	知っていた	知らなかった	積極的に参加したい	条件次第で参加したい	参加したくない	ある	ない	参加したい	どちらでもない	参加したくない
52.0%	38.8%	9.2%	27.0%	73.0%	16.4%	62.1%	21.4%	68.7%	31.3%	54.5%	37.1%	8.4%

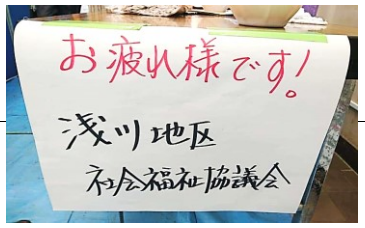
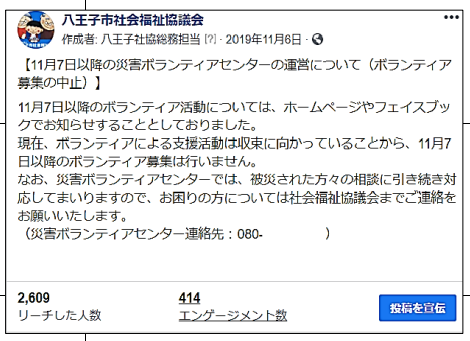
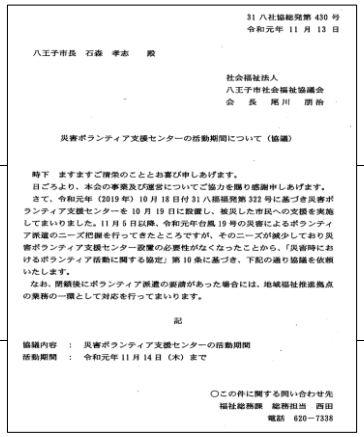
（資　料）社会福祉協議会の災害対応経過一覧

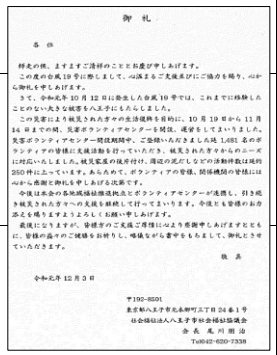
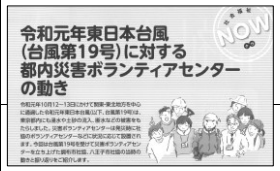
日付	八王子(元本郷町)の天気		災ボラ運営状況	社協(社会福祉協議会)の動き
10月11日 (金)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り・雨	21.7 16.7 31.0 4.2	 川と化す甲州街道(西浅川町)	翌日の台風上陸予報から災害ボランティアセンター開設の可能性があるため必要と思われる備品を準備する。 翌日と翌々日開催予定の民生・児童委員協議会第12及び15地区のひとり暮らし高齢者対象の昼食交流会の中止を決定。 市内ガソリンスタンドより発電機用のガソリンを寄贈いただく。 16:30～17:00　管理職打合せ　本庁にて「台風通過後、各事業所の被害状況確認の指示」
10月12日 (土)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:大雨	24.4 20.8 392.5 14.8		 荒れ狂う南浅川(浅川支所北歩道橋) 普段の様子 
10月13日 (日)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	27.3 18.3 0.0 10.4	 １３日朝 土泥に覆われる道路(高尾町)	8時　避難勧告(警戒レベル4)発令 11時30分　八王子市水防警戒本部設置 15時30分　避難指示(緊急)(警戒レベル4)発令  中央本線被害状況(裏高尾町) 普段の様子 
			 １３日午前ＣＳＷニーズ調査開始	3:50　避難指示(緊急)(警戒レベル4)解除 6:00頃　浅川地区社協より浅川エリアに土砂流出の連絡があり、地区社協として集まって対応すると連絡をうける。 9:00頃　浅川拠点CSWよりシャベルなどの貸出要請。 10:30頃　浅川地区社協、浅川町会と情報交換を行う。(浅川地区社協事務所) 11:00頃　参集された多くの職員が浅川地区に入り、浅川拠点支援。 11:10～　浅川市民センター周辺にてニーズ調査開始。 11:30頃　浅川拠点にスコップなど機材搬入。地域住民などが活用する。 浅川事務所の一部を災害対応ブースとしてを借用 13:00　八王子市災害対策本部設置 13:00　ボランティアセンターにて管理職と市民力支援課職員で緊急会議開催。 当面、通常の地域福祉推進拠点の活動の一環としてボランティア募集を行うこととする。 17:00頃　社協職員、八王子青年会議所メンバー、ライン@登録ボランティアに、翌日の災害ボランティアの呼びかけを行う。
			 ＬＩＮＥ(ライン)を通じて ボランティア要請	
10月14日 (月)＊祝日	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨	19.0 14.7 6.0 4.6	参加人数29名  １４日ボランティア受付風景	8:30～16:30頃まで社協職員、八王子青年会議所のメンバー及び登録ボランティア等が浅川市民センター周辺及び下恩方(恩方中前、松竹町会)の被災者宅で土砂かき等の活動を実施。 この段階で徐々に市内の被害状況が明るみになってくる。  １４日活動先移動風景(下恩方町) 高尾町中宿町会よりお弁当や飲み物の差し入れあり。(近隣町会より1週間程度差し入れ続く) 10:00頃　浅川地区町自連会長、浅川地区社協会長、民生委員で南浅川地区被害状況視察。 13:30　浅川地区社協と情報交換(主に南浅川地区の被災状況) 14:00　東京都社会福祉協議会(以下:東社協)浅川拠点視察(福祉部長、地域福祉部長・統括主任、東京TVAC統括主任)と情報交換。 20:00　社協フェイスブック(FB)に被災状況と災害ボランティアを公募(12,594のリーチあり) 社協FBにて、災害対応のボランティアの募集を呼びかける。集合場所は浅川事務所内で集合時間は9時。午前8時30分から受付開始。浅川拠点で18日まで対応。
			 東社協視察	
10月15日 (火)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	20.5 13.9 3.0 4.9	参加人数11名  表示された優先基準	13:00～15:00　浅川事務所会議室にて　第1回臨時地域連携会議(町会・民生委員・包括・地区社協・事務所・社協)を開催。情報共有を行うとともに、今後の連携体制や役割分担を決定。 浅川拠点では、民地での土砂かきボランティア活動の優先基準を定める。 第1優先　日常生活に影響のある部分の土砂等を排除する。 第2優先　生活している家屋周辺(1m程度)の土砂等を排除する。 第3優先　生活している家屋庭の土砂等を排除する。 第4優先　生活している家屋床下の土砂等を排除する。(衛生管理のオリエンテーションを実施したうえで) 第5優先　非生活建屋等の土砂等を排除する。

日付	八王子(元本郷町)の天気		災ボラ運営状況	社協(社会福祉協議会)の動き
10月16日 (水)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	16.5 12.3 0.0 5.4	参加人数76名 ・セガサミー野球部選手30名	11:30　民生委員、国士舘大学防災・救急救助総合研究所と活動打合せ。 八王子青年会議所に災ボラ運営協力を依頼。  国士舘大学と打合せ(浅川事務所)  豚汁の差し入れが振る舞われた(浅川事務所)
10月17日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り・雨	16.3 13.2 7.5 2.8	参加人数92名 ・セガサミー野球部選手30名	災害ボランティアリーダーに災ボラ運営協力を依頼。 東社協職員2名が災ボラ設置の情報共有や準備のため、浅川拠点や本庁を訪問。 恩方老人憩の家に訪問し、恩方サテライトの立ち上げについて打ち合わせを行う。 恩方地区・加住地区ニーズ調査。
10月18日 (金)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨・曇り	16.5 13.8 17.5 3.8	参加人数41名 ・セガサミー野球部選手30名	八王子市より発信された災ボラ設置協力要請文(31八福福発第322号)を受理。 本部立ち上げに際し、資機材の購入搬入、会場の設営を行う。 恩方サテライト立ち上げのための最終準備を行う。 東社協及び東京災害ボランティアネットワークが浅川地区被災状況視察及び浅川拠点と打合せ。 高月地区の災害ボランティアについて、日本青年会議所　関東地区　東京ブロック協議会へ打診を行う。  １８日　開設準備を終えた本部
10月19日 (土)  	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨・曇り	22.5 13.8 33.0 5.4	参加人数105名 ・セガサミー野球部選手約30名 ・(社)甲府青年会議所5名 ・日本体育大学災害ボランティアチーム14名 ・トヨタ東京自動車大学校12名 〇八王子社協対応職員 本部14名、浅川2名、恩方2名、由木1名 〇市職員 本部10名 災ボラリーダー7名 〇東社協応援職員 浅川2名 〇南多摩ブロック応援職員 日野3名　多摩3名　稲城1名 レンタカー5台 マイクロバス3台	災害ボランティアセンターを開設。 本部:八王子市役所職員会館体育館 浅川サテライト:地域福祉推進拠点浅川(主に浅川地域事務所のスペースを利用) 恩方サテライト:恩方老人憩の家 由木サテライト:地域福祉推進拠点由木 東社協、東京ボランティア・市民活動センター及び東京災害ボランティアネットワークが浅川サテライトにて運営支援。 専門学校 トヨタ東京自動車大学校寄付　軍手タオル100セット・マスク200枚  災ボラ初日ボランティア寄せ書き(本部)  応援職員を交えた運営会議 (浅川サテライト)
２０日ボランティア受付(本部)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	24.3 16.2 0.0 4.3	参加人数125名 ・日野市消防団9名 ・トヨタ東京自動車大学校9名 〇八王子社協対応職員 本部14名、浅川4名、恩方2名、由木1名 〇市職員 本部10名 災ボラリーダー7名 〇東社協応援職員　浅川1名 〇南多摩ブロック応援職員 町田2名　日野2名　稲城1名 レンタカー6台 マイクロバス3台	 軍手・タオル・マスクの寄付  職員会館の体育館の災害ボラ本部  差し入れ豚汁で昼ごはん (浅川事務所) 八王子食堂ネットワークが浅川サテライトでボランティアさんに豚汁振る舞う
10月21日 (月)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	19.6 14.2 7.0 6.5	参加人数59名 〇八王子社協対応職員 本部14名、浅川4名、恩方2名、由木2名 〇市職員 本部10名 災ボラリーダー7名 〇東社協応援職員　浅川1名 〇南多摩ブロック応援職員 町田1名　稲城1名 レンタカー4台	公益社団法人　日本青年会議所　関東地区　東京ブロック協議会の協力のもと、技術系ボランティア等を中心に高月地区にてボランティア活動を行う。  技術系ボランティアの作業(高月町) 

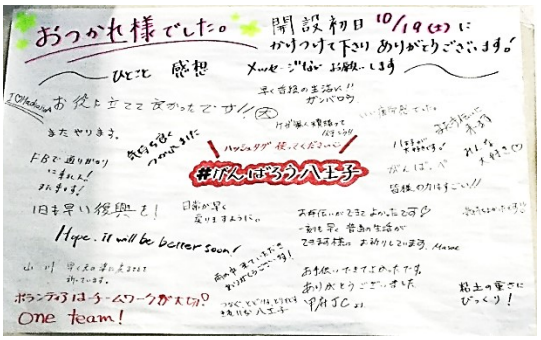
日付	八王子(元本郷町)の天気		災ボラ運営状況	社協(社会福祉協議会)の動き
10月22日 (火)＊祝日	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:大雨	17.1 12.4 48.0 7.8	中止	公益社団法人 日本青年会議所 関東地区 東京ブロック協議会の協力のもと、技術系ボランティア等を中心に高月地区にてボランティア活動を行う。(15名)
10月23日 (水)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	24.6 11.1 0.0 5.8	参加人数94名 ・IVUSA ・美紘建興株式会社7名 ・法政大学体育会サッカー部 14人 ○八王子社協対応職員 本部11名、浅川6名 恩方1名、由木2名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー17名 ○東社協応援職員 浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 日野1名 多摩3名 レンタカー4台	災害時相互支援協定を締結(H28.7)している福島県相馬市社協(事務局長)が午前本部、午後浅川地区を視察。  朝の消耗品受取風景(本部)  作業道具の選別風景(本部)
10月24日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	18.6 13.6 1.5 6.1	参加人数61名 ○八王子社協対応職員 本部11名、浅川4名、恩方1名、由木2名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー6名 ○東社協応援職員 浅川3名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名 日野1名 多摩2名 稲城1名 レンタカー4台	 泥だらけ長靴洗浄風景(本部)  作業道具の後片付け(浅川サテライト)  床下作業を行う学生ボランティア(西浅川町)
10月25日 (金)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:大雨	15.3 13.7 96.5 8.1	中止 参加人数0名 ○八王子社協対応職員 本部11名、浅川1名、恩方1名、由木2名 ○市職員 0名 ○東社協応援職員 浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 0名 レンタカー4台	 ボランティア 女子大生の熱意 無職 (東京都八王子市) 69 台風19号で八王子市内で浸水被害が出ました。少しでも役立ちたいと思い、ボランティアに参加しました。私を含めた男女6人で床上浸水した住宅に入りました。床下にたまった泥をかき出す作業です。そのときのこと。2人の女子大生が誰から指示されたわけでもないのに床下に率先して潜り込んだのです。狭いところから泥をかき出すのは大変なこと。終わると、見事に全身泥だらけでした。履物や服はもちろん、お化粧をしていたかわいい顔にも泥だ。それでも笑顔を絶やさず、文句一つ言わなかったのにはびっくりしました。彼女たちの熱意に胸が熱くなりました。 読売新聞 令和元年十一月六日 気流欄 雨のため、浅川地区にて室内活動実施(IVUSA5名)
10月26日 (土)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	24.3 12.1 0.0 6.7	参加人数151名 ・IVUSA11名 ・聖パウロ学園高等学校12名 ○八王子社協対応職員 本部11名、浅川5名、恩方1名、由木1名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー7名 ○東社協応援職員 浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名 日野1名 稲城1名 レンタカー8台	 ボランティア８名で庭堆積土砂かき半日作業の成果(高尾町)
10月27日 (日)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	22.3 13.9 0.0 4.8	参加人数173名 ・拓殖大学剣道部5名 ・IVUSA10名 ・横浜翠陵高校野球部21名 ○八王子社協対応職員 本部11名、浅川4名、恩方2名、由木1名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー8名 ○東社協応援職員 浅川2名 ○南多摩ブロック応援職員 日野2名 多摩3名 稲城1名 レンタカー8台	1日にあたり最多の参加者数。 浅川サテライトでは、本部への送迎車を待つ列ができる。  最大４０名ほどの送迎待ち(浅川サテライト)

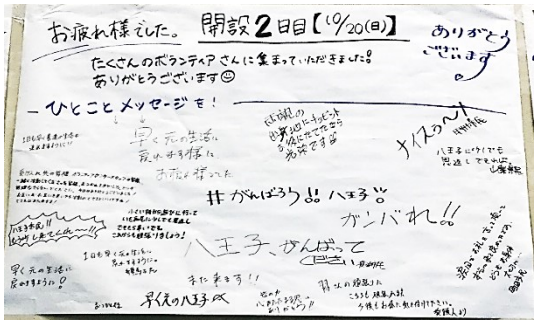
日付	八王子(元本郷町)の天気		災ボラ運営状況	社協(社会福祉協議会)の動き
10月28日 (月)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	20.9 13.3 0.0 4.9	参加人数79名 ・(株)ユキ6名 ・BHPジャパン(株)6名 ○八王子社協対応職員 本部10名、浅川6名 恩方1名、由木2名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー3名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　多摩1名 レンタカー4台	 徳島県を拠点とするバンド四星球のメンバー(本部)  応援職員を交えての終礼(浅川サテライト)
10月29日 (火)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨	14.7 11.3 12.0 3.3	参加人数25名 ・国士舘大学体育学部、防災・救急救助総合研究所6名 ○八王子社協対応職員 本部10名、浅川4名、恩方1名、由木2名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー3名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　日野1名　多摩3名　稲城1名 レンタカー4台	15:00～17:00　浅川事務所会議室にて　第2回臨時地域連携会議(町会・民生委員・包括・市民センター・地区社協・事務所・福祉政策課・社協)を開催。  第２回臨時地域連携会議(浅川事務所)  ボランティアが詰めた土のう袋を素早く回収する清掃事務所職員(南浅川町)
10月30日 (水)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	22.7 9.7 0.0 3.5	参加人数57名 ○八王子社協対応職員 本部11名、浅川3名、恩方1名 由木2名 ○市職員 本部9名 災ボラリーダー2名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　多摩2名　稲城1名 レンタカー4台	 災ボラ移行後初めての朝礼(浅川市民センター) 
10月31日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り・晴れ	20.6 12.2 0.0 3.8	参加人数75名 ○八王子社協対応職員 浅川7名 ○市職員 浅川1名 災ボラリーダー1名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　日野1名　多摩1名　稲城1名 レンタカー4台	本部を地域福祉推進拠点浅川に移行し、職員会館の本部、恩方・由木サテライトは閉鎖。
11月1日 (金)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	23.3 9.9 0.0 3.8	参加人数88名 ・海城高校7名 ○八王子社協対応職員 浅川5名 ○市職員 浅川1名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　日野1名　多摩1名　稲城1名 レンタカー4台	 きれいになった用水路(南浅川町)  豚汁で活動の疲れを癒す(浅川事務所) 八王子食堂ネットワークがボランティアさんに豚汁振る舞う
11月2日 (土)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	19.4 8.6 0.0 4.9	参加人数123名 ○八王子社協対応職員 浅川9名 ○市職員 浅川1名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　日野1名　多摩1名　稲城2名 レンタカー4台	17:00～18:00　浅川事務所会議室にて　第3回臨時地域連携会議(町会・事務所・社協)を開催。 被災住民向け説明会周知依頼。災ボラの今後について協議。  第３回臨時地域連携会議(浅川事務所)  ＴＶＡＣ山崎所長浅川地区視察
11月3日 (日)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	18.5 10.2 3.5 3.7	参加人数120名 ○八王子社協対応職員 浅川8名 ○市職員 浅川1名 ○東社協応援職員　浅川2名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　多摩1名　稲城1名 レンタカー4台	11:00～16:00　東京ボランティア・市民活動センター山崎美貴子所長(神奈川県立保健福祉大学名誉教授)視察 17:00　八王子青年会議所と「災害時の相互協力協定」締結  

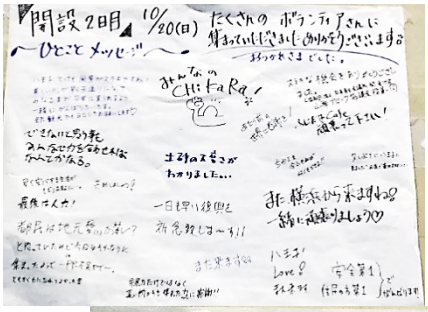
日付	八王子(元本郷町)の天気		災ボラ運営状況	社協(社会福祉協議会)の動き
11月4日 (月) ＊振替休日	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	19.3 9.1 0.5 5.1	参加人数115名 ○八王子社協対応職員 浅川6名 ○市職員 浅川1名 ○東社協応援職員　浅川1名 ○南多摩ブロック応援職員 町田1名　日野1名　多摩1名　稲城1名 レンタカー4台	浅川地区社協がボランティアさんに豚汁振る舞う。 ボランティア要請への対応が概ね終了したため、ボランティア活動者の休止を社協FBに告知(5・6日) ボランティアニーズの受付は継続実施。  
11月5日 (火)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	19.2 6.4 0.0 4.8	活動休止 参加者2名 ○八王子社協対応職員 浅川1名 レンタカー2台	
11月6日 (水)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	20.4 6.7 0.0 3.5	活動休止 参加者5名 ○八王子社協対応職員 浅川1名	TOTALFATのShunさんが地域福祉推進拠点浅川に立ち寄る。10/23には浅川地区で活動。 社協FBにボランティア活動者の募集を中止を告知(7日以降)  
11月7日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	22.8 6.9 0.0 6.7	募集中止 参加者4名 ○八王子社協対応職員 浅川2名	
11月8日 (金)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	17.8 7.0 0.0 4.6	募集中止 参加者0名 ○八王子社協対応職員 浅川2名	19:00～21:00　東京都災害ボランティアセンター第4回情報共有会議出席
11月9日 (土)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	16.7 9.2 0.0 4.5	募集中止 参加者7名	  １１日　被災地区を確認する生活支援コーディネーター(上恩方町)
11月10日 (日)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	18.3 6.5 0.0 5.1	募集中止 参加者15名	
11月11日 (月)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨・曇り	15.0 8.7 7.5 4.9	募集中止 参加者0名	10:00～16:30　恩方地区ニーズ再調査
11月12日 (火)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	21.7 7.4 0.0 8.4	募集中止 参加者0名	 １４日　住民説明会での災害ボランティアの講演風景
11月13日 (水)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	14.5 9.3 0.0 3.3	募集中止 参加者0名	 八王子市へ災害ボランティアセンターの開設期間の協議を依頼(31八社協総発第430号)
11月14日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	21.1 8.6 0.5 7.9	募集中止 参加者3名	八王子市より11月14日付で災害ボランティアセンターを閉鎖する旨の通知を受領。同日、閉鎖。 被災された方々の相談は、地域福祉推進拠点において引き続き対応。 17:30～19:30　浅川市民センター体育館にて被災住民向け説明会開催(浅川地区町自連・社協共催)地域住民66名・行政職員(課長職)9名参加。 東社協3名及び東京災害ボランティアネットワーク1名が当日開催協力いただく。

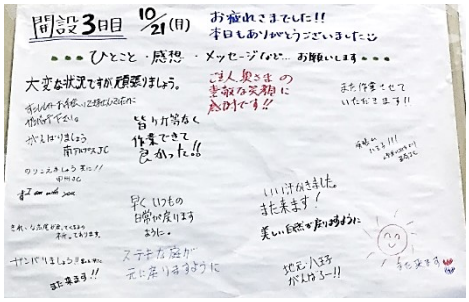
日付	八王子(元本郷町)の天気		災ボラ運営状況	社協(社会福祉協議会)の動き
11月16日 (土)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	19.1 5.0 0.0 6.3	通常ボラ 参加者13名 ・拓殖大学5名 ・中央大学3名 ・明星大学3名 ・創価大学2名	地域福祉推進拠点浅川において、車庫土砂かき・畑流木撤去(恩方地区2か所)対応。  １６日　学生ボランティアによる作業(上恩方町)  ２１日　社会人野球選手による作業(上恩方町)
11月21日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	15.1 2.7 0.0 3.9	通常ボラ 参加者33名 ・セガサミー野球部選手23名 ・明治安田生命野球部10名	地域福祉推進拠点川口において、個人宅 (恩方地区2か所)土砂かき・災害ごみ撤去対応。 
11月23日 (土)＊祝日	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨	13.2 9.7 25.5 6.0	通常ボラ 参加者5名 ・市内1名、市外4名社会人	地域福祉推進拠点浅川において、個人宅 (浅川地区)庭土砂かき対応。
11月24日 (日)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨・曇り	22.0 13.1 9.0 4.8	通常ボラ 参加者13名 ・トヨタ自動車13名	地域福祉推進拠点浅川において、個人宅(浅川地区)庭土砂かき対応。  浅川地区住民の多くが写真を通じて地域の被害状況を初めて知る 
12月8日 (日)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	13.0 -0.7 0.0 6.3		地域福祉推進拠点浅川のCSWが東浅川小学校で行われた浅川地区町会連合会主催防災訓練に参加し、災害ボランティア活動及び被害状況の写真パネルを展示。
12月9日 (月)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	7.7 0.2 0.5 3.3	通常ボラ 参加者5名 ・拓殖大学5名	地域福祉推進拠点浅川において、 個人宅庭(高尾町)土砂かき対応。  ９日　寒い中、学生ボランティアによる作業
12月13日 (金)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	8.2 3.4 0.0 3.7		13:00~15:00　令和元年度区市町村災害時ボランティア担当者会議(共催:東京都生活文化局、東京ボランティア・市民活動センターセンター)にて災ボラ活動を報告
12月17日 (火)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	9.3 5.9 5.5 2.5	 ３日　２２団体へボランティア活動のお礼状送付	 台風19号による市内の被災状況や災害ボランティア活動を知っていただくため、市役所市民ロビーにて災害ボランティア活動写真展を年内開催。翌年2月末日まで計10か所にて展示。
1月21日 (火)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	11.6 -0.3 0.0 10.5	 福祉広報 4 令和元年東日本台風(台風第19号)に対する都内災害ボランティアセンターの動き	 災害ボランティア資材倉庫を浅川事務所敷地に設置
2月22日 (土)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:曇り	18.3 4.6 1.5 10.9		13:30~15:30　恩方地区のまちづくり懇談会(主催:恩方地区住民協議会・町会自治会連合会)にて災ボラ活動を報告。  令和元年東日本台風(台風第19号)に対する都内災害ボランティアセンターの動き  まちづくり懇談会(恩方市民センター)
3月12日 (木)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:晴れ	16.4 2.3 0.0 9.4	 地域福祉推進拠点　恩方	福祉広報4月号(発行:東京都社会福祉協議会)「社会福祉NOW」の令和元年東日本台風(台風第19号)に対する都内災害ボランティアセンターの動きとして、八王子社協の災ボラ活動の取材を受ける。  利用者専用 3台 恩方事務所 駐車場 地域福祉推進拠点 高齢者あんしん相談センター
4月1日(水)	最高気温 最低気温 日積算降水量(mm) 最大風速(m/s) 天気:雨	12.1 8.3 27.5 4.5	災害時には復旧の中核となる拠点を恩方地区に設置	市内で9か所目となる地域福祉推進拠点を、八王子市恩方事務所内に開設し、CSWを配置する。隣には高齢者あんしん相談センターがあり、地域のあらゆる相談を受け付け、地域の力を活用しながら対応する。

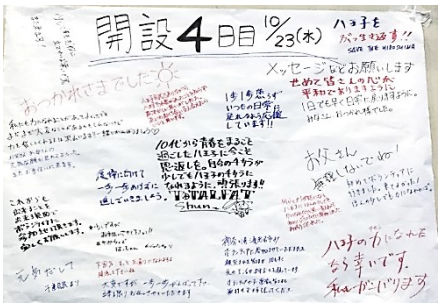
ボランティア参加者による本部での寄せ書き

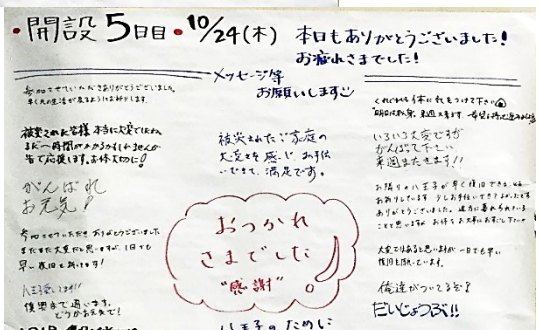


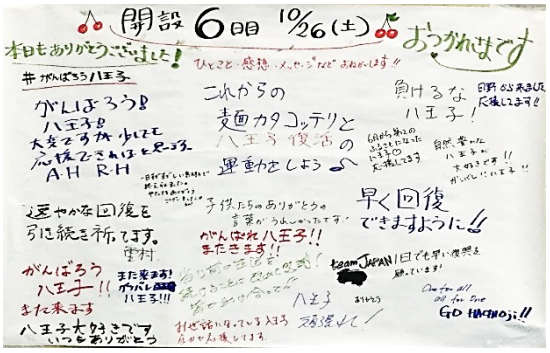


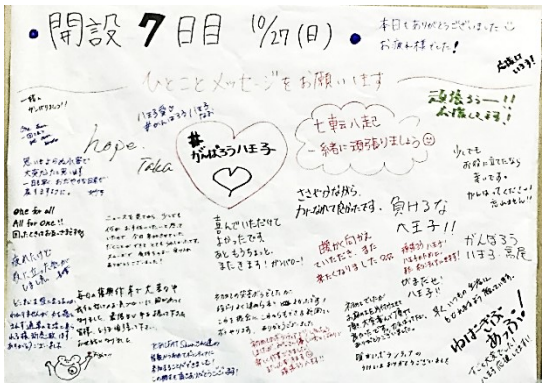


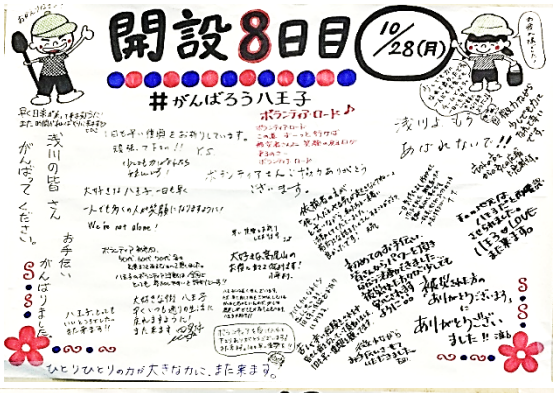


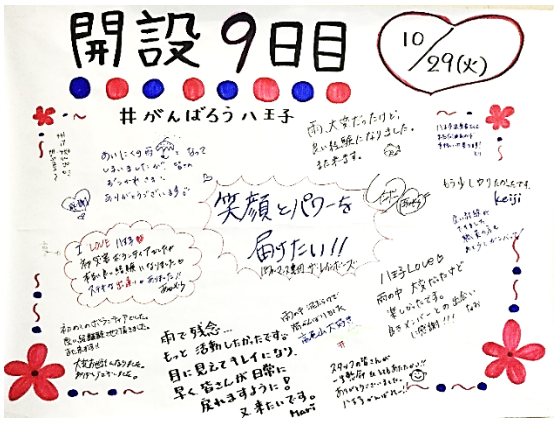


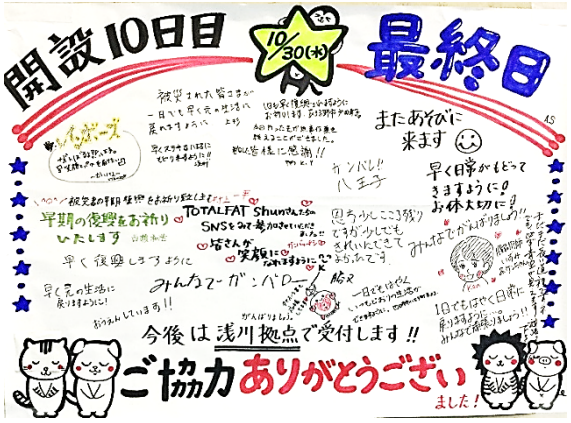














泥まみれになりながら懸命な作業

発行日：令和２年９月１日
社会福祉法人　八王子市社会福祉協議会
市民力支援課（八王子市ボランティアセンター）
〒192-0081　東京都八王子市横山町 11-2 金子ビル４階
電話 042-648-5776